

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①ICTを活用した組織的授業改善に取り組み、変化の激しい社会に適応できるよう、生徒の資質・能力を高める。</p> <p>②大学進学等の多様な進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①ICTを活用した授業改善及び校内環境の整備を進める。 ①故障等機器トラブルに即応する。</p> <p>②新指導要領に沿った教育課程を推進し、組織的かつ計画的な学習指導を実施する。 ②進路実現に向け、主体的な学びを進め、確かな学力の向上を図る</p>	<p>①「ICT活用」「主体的・対話的で深い学びの実現」に組織的に取組む。 ①半期ごと棚卸を行い、ICT機器整備に努める。</p> <p>②年間を見通した指導と評価の計画を作成し、計画的に授業実践を行う。 ②動画視聴や到達度テストにより、主体的に学習に取り組むよう支援する。</p>	<p>①授業評価により、ICTを活用した授業改善、ICT環境の整備が進んだか。</p> <p>①故障、紛失等に即応できたか。</p> <p>②単元の指導と評価の計画をふまえて指導や評価を実践することができたか。 ②主体的に学習に取り組む、基礎学力の定着を図ることができたか。</p>	<p>①授業評価において、「ICTを活用」の項目の評価平均が3.1に達した。</p> <p>①ICTの活用を意識した研修会を実施し、職員の授業改善に役立てることができた。</p> <p>①3年次生のクロムブックの回収時期を早めることによって、漏れなく回収できた。</p> <p>②全職員で、担当する講座の「単元の指導と評価の計画」を作成したことで、見直しをもって指導と評価を行うことができた。</p>	<p>①定着したICT活用が「主体的・対話的で深い学びの実現」に具体的に繋がっているかを検証していく ①電子黒板の導入により、そのよりよい活用方法を組織的に検討する必要がある。</p> <p>①半期ごとの棚卸が不十分だったので、次年度は徹底したい。</p> <p>②今年度は、3年次の講座は一部の単元のみ作成したが、次年度はすべての年次で全単元の計画を作成していく。</p>	<p>○ ICTをどう使うではなく、1年を通して授業をどのようにデザインしていくかを考えてほしい。 ○ 教育無償化の先進地では、公立校の倍率が落ちている。各校が特徴を出していくことが必要である。 ○ 実際に授業を参観して、ICTの有無にかかわらず、工夫された授業は生徒が集中している。 ○ インプットの場合とアウトプットの場合をバランスよく配置した授業をしてほしい。</p>	<p>① ICTを活用した授業改善をすすめるとともに、ICT活用環境を整備した。1人1台端末導入3年目にあたり、新たに導入された電子黒板を活用した授業を展開した。</p> <p>② 新学習指導要領に基づき、本校の魅力と特色を具現化した教育課程の3年目を実施した。引き続き、必要な整備を継続していく。</p>	<p>① 授業互見、ICT支援員の活用、校内研修の充実により「学力定着のためのICT利活用」という観点や「日常でのICT活用の実践モデル」を職員間で共有し、引き続き授業改善をすすめるとともに、1人1台端末に対応した教育環境整備を行う。</p> <p>② 新学習指導要領の実施状況を踏まえ、カリキュラム・マネジメントをすすめる。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>②規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①職員の教育相談への意識を高め「積極的」アプローチを行う体制を構築する。</p> <p>②校内や地域におけるルールやマナーを確認し、生徒自身の自律した行動を養成する。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、生徒が個人やグループで参加できる機会を多く設定できるようにする。</p> <p>④部活動を活性化するための準備段階として、本校の各部活動の現状を把握し、活動計画の作成に役立てる。</p>	<p>①教員とSC・SSWの情報共有機会を定期的に設け、生徒への適切な支援体制を構築する。</p> <p>②生徒・保護者・地域・生徒会役員等と連携し、規範意識を高める取組を行う</p> <p>③生徒会主催行事で、行事を盛り上げるための有志参加者を募集する。また、各行事で部活動や委員会に運営の役割を依頼し、行事に関わる時間を増やす。</p> <p>④本校に適した部活動の方針を作成するとともに、部活動に加入している生徒の満足度を調査する。</p>	<p>①教員とSC・SSWが生徒の情報共有をし、適切に支援することができたか。</p> <p>②生徒・保護者・地域・生徒会役員等と連携し、規範意識を高める取組を行うことができたか。</p> <p>③各行事で、生徒会以外の生徒も参加でき機会を与えるように企画することができたか。 行事への有志参加や地域でのボランティア活動に参加する生徒がいたか。</p> <p>④本校に適した部活動の方針を作成することができたか。 部活動の満足度を調査するなどして、現状を把握することができたか</p>	<p>①SC・SSWと教員の連携を密にし、前年より2倍の生徒のスクリーニングをし、積極的にプッシュ型の支援を行った。</p> <p>② 教員と生徒会役員との意見交換会を複数行い、本校にとっての校則の在り方を考えることができた。</p> <p>③体育祭、文化祭で、応援団や後夜祭など多くの生徒が有志として参加し、各行事を盛り上げた。多くの部活動や委員会の生徒が運営に協力した。</p> <p>④「神奈川県立学校に係る部活動の方針」に則り、本校に適した「横浜緑園高等学校の部活動に係る活動方針」を策定した。</p>	<p>①年2回のサポートドックに対応する期間があるため、通常教育相談支援が停滞する事が多々ある。</p> <p>② 生徒全体に規範意識を持たせることと、校則の見直しをバランスよく行うために、生徒会役員との意見交換会を継続していく。</p> <p>③地域イベントにチアバトン部や吹奏楽部など部活動単位で参加した生徒はいたが、個別に地域のボランティアに参加した生徒はいなかった。</p> <p>④部活動に加入している生徒の満足度調査が実施できなかった。次年度、満足度調査を実施して、本校の部活動の方針等の検証に役立てていく。</p>	<p>○ 生徒指導のスタンスを固め、ダメなものはダメというスタンスを守り続けてほしい。 ○ 制服のルールについては、保護者からの意見も多く、防犯の意味から改善したほうがいいのではないかと。この3年間で、生徒たちが声をあげられるようになってきていると思う。 ○ 校内ルールについては、生徒が意見表明することは、子どもの権利条約の観点からもいいことだと思う。 ○ 緑園生は、年々よくなっている。入りたい学校になっていると思う。 ○ アンケートだけでなく、日頃の行動観察や声かけ等を通じ、生徒のSOSを早期にキャッチし、未然防止に努めてほしい。</p>	<p>① SCやSSWとの連携による効果的なプッシュ型面談を行い支援につなげた。今後は、SC・SSW配置の充実、PC環境の整備を期待したい。</p> <p>② 生徒の規範意識を高めるため、校則について生徒とともに考えることができた。</p> <p>③ 学校行事において生徒会役員等の主体的な取組による学校行事を実施することができた。</p> <p>④ 部活動の活性化に向けた取組を行った。今後はよりきめ細かな生徒の実態把握に努めたい。</p>	<p>① サポートドックの取組3年目に当たり、より効率的な運用体制・支援体制を構築する。</p> <p>② 保護者・地域・生徒会役員等とも連携し、生徒の規範意識を高める取組を行う。</p> <p>③ 学校行事等への生徒の主体的な取組をより支援する。</p> <p>④ 策定した「部活動の方針」を効果的に運用するとともに、「部活動満足度調査」を実施し、部活動活性化に向けた取組を工夫する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができるような進路指導を展開する。	①生徒が、自身の在り方生き方を探究しながら、進路希望を実現できるキャリア教育の充実を図る。進路指導に関する教員研修を積極的に実施し、教職員が適切な進路指導ができるよう、最新の情報共有に努める。	①生徒の主体的な学習を推進し、自己肯定感を高める取組を進める。総合的な探究の時間の充実のため3箇年の指導計画を再構築する。大学入試、専門学校進学等に関する研修会実施により、教員一人ひとりの指導力向上が見られたか。	①主体的な学習、自己肯定感を高める具体的な活動が展開できたか。総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の3箇年計画を再構築できたか。研修会実施により、教員一人ひとりの指導力向上が見られたか。	①進路指導に関する教員研修を予定通り実施し、生徒の進路支援において様々な場面で活用できた。スタディサプリを活用しての主体的な学びは徐々に浸透しているが、副教材としてさらに活用する余地がある。総合的な探究の時間の3箇年指導計画ができあがったので、次年度は具体的な運用に進みたい。	①スタディサプリを宿題配信し、生徒に主体的に取り組ませる体制を組織的に整える。また、各教科・科目においても探究的な学びを推進し、総合的な探究の時間の充実、生徒のキャリア形成に繋がった教育活動を展開していきたい。	○ 総合的な探究の時間の「探究」は、1年で答えが出るものではない。成果物にこだわると総合的な学習の時間と変わらないものになるので工夫されたい。 ○ 他の生徒の価値観や考え方に触れ、気付く機会を設定することで、生徒一人ひとりのキャリア発達を支援してほしい。	① 「総合的な探究の時間」の3箇年指導計画を整備した。次年度は具体的な運用に進みたい。 ② 進路指導に関する教員研修を実施・スタディサプリの活用により、生徒の希望進路実現に向けた指導・支援を行った。	① 整備した「総合的な探究の時間」の3箇年指導計画を適切に運用する。 ② スタディサプリのさらなる活用により、学習習慣の定着、学習支援・探究活動の充実を図る。
4	地域等との協働	①地域の教育力や外部の人材を活用した教育活動を推進する。 ②共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育をすすめる。	①高大連携をはじめ関係機関や地域、外部の協力・支援により、キャリア教育の充実を図る。 ②生徒会主催行事等で、分教室との交流を広げて、インクルーシブ教育への理解を深める。	①大学はじめ外部機関・地域から講師を招いて、教育活動を展開することで、より充実したキャリア教育を目指す。 ②分教室の生徒に文化祭や部活動等に積極的に参加してもらい、本校生徒と交流する機会をつくる。夏季休業中の部活動交流を昨年以上に広げる。	①生徒のキャリア形成につながる支援ができたか。 ②1年間で複数回の交流の機会をつくることできたか。部活動の交流ができたか。	① コンソーシアムの活用により、教科・科目において深い学びが実現でき、生徒のキャリア意識啓発に繋がった。 ②文化祭では、校内公開、一般公開の両日とも分教室から2つの企画で参加してもらい、本校と分教室の生徒同士が交流を深めることができた。部活動での交流については、分教室の生徒が参加した部活動が3つと少なかった。 ②夏季休業中に野球部、サッカー部、茶道部が部活動体験を実施した。文化祭では、分教室が2企画参加した。	①高大連携の中には一部形骸化しているものもあるので、より効果的な活用方法を検討する。 ②次年度は部活動での交流数を増やし、体育祭にも分教室の生徒に参加してもらえよう企画を考えていきたい。 ②文化祭では交流の機会を増えたが、部活動体験は昨年並みであったので、募集時期を早めて機会を増やしたい。	○ 地域との協働において手話通訳をもっと発展してもよい。 ○ 地域課題を探究活動のテーマとして地域とつながってもいいと思う。その成果が進路につながればなお良いと思う。 ○ 地域でボランティアしてほしいところがある。学校とのマッチングが課題である。 ○ 地域行事に、緑園高校の学生さんにも参加いただいている。	① コンソーシアムの活用により深い学びを実現し、生徒のキャリア意識を啓発した。 ② 学校行事を通じた分教室との交流は深まったが、部活動についてはさらなる充実を図りたい。	① 高大連携のより効果的な活用方法を検討する。 ② 分教室や地域との交流を通じて生徒の人権意識を涵養する ② 学校行事を通じた分教室との交流のさらなる充実を図るとともに、部活動における交流機会を増やしたい。 ○ 地域等との協働はコロナ前の水準回復が課題である。
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②本校の教育活動を積極的に発信し、学校の魅力をPRする。 ③教職員の働き方を見直し、教職員自身のウェルビーイングを高める。	①衛生的で、安心・安全な学校づくりを行う。 ②学校説明会や見学会の内容及びホームページの充実を図り、学校の魅力を分かりやすく伝えられるようにする。 ③教職員の休暇の取得日数の増加と超過勤務時間の減少を目指す。	①清掃活動や防災訓練を通して、美化意識や防災意識を高める。 ②学校見学のルートや学校の特色に関する説明内容等を検討する。ホームページによる学校行事や説明会等の情報発信を迅速に行う。 ③衛生委員会を活用して、休暇取得状況及び超過勤務時間集計を把握して、職員に啓発する。	①清掃活動や防災訓練を通して、美化意識や防災意識を高めることができたか。 ②参加人数を十分確保し、満足度の高い説明会等を実施できたか。ホームページを適切な頻度で分かりやすい内容で更新できたか。 ③昨年比で休暇の取得日数は増えたか。超過勤務時間の平均は減少したか。	①ゴミの分別を徹底する指導を実施した。2回の防災訓練で危険個所と帰宅班の確認できた。 ②校内で実施する学校見学や学校説明会で、アンケートを実施した結果、高い満足度を得ることができた。ホームページの部活動や行事のページを更新し、在校生の活動や学校の魅力を伝えることができた。 ③超過勤務状況を衛生委員会で確認し、産業医の面談を実施することにより、超過勤務時間の平均が減少した。 ④不祥事防止研修を毎月実施するとともに、随時テーマごとの研修を実施し、事故防止に努めた。	①日頃「美」の指導を大切にして美化意識と防災意識を高め、実際の場面で大切な行動がとれるようにする。 ②参加者アンケートの結果だけでなく、職員の振り返りを行うことで運営面での改善をはかるHPの充実と合わせて中学校での進路説明会等にも参加し、学校の魅力を直接伝えるよう努める。 ③超過勤務状態確認と産業医面談を継続するとともに引き続き1日単位の休暇取得を呼びかける。 ④引き続き研修会を工夫し、チェックシート等を用いた点検を実施する。	○ 各Gの報告を聞き組織的に学校運営がされていることがよく分かった。 ○ 数多くの活動の中で、教員が疲弊しては本末転倒なのでケアをしっかりとしてほしい。 ○ 分教室との連携方法なども生徒に考えさせているのか。生徒の委員会などを作ってもいいのではないかな。	① ゴミ分別について指導をしたが、徹底することができなかった。 ② 学校行学校説明会やホームページの充実により、学校の魅力を外部に伝えることができた。 ③不祥事防止研修会を実施するとともに、点検体制の整備をすすめた。 ④ 服務管理のオンライン化により、業務改善を図った。超過勤務者が減少した。	① ゴミ分別について環境問題への理解を深め指導を継続する。 ② 学校説明会やHPだけでなく、中学校が実施する説明会にも積極的に参加して本校の魅力を発信する。 ③引き続き研修会を工夫するとともに、チェックシートを用いた点検を実施する。 ④ 業務改善を進めるとともに、超過勤務者の減少、1日単位の年休取得の呼びかけを継続する。

